

蓄 膿 症

— 慢性副鼻腔炎 —

蓄膿症とは一般的に、慢性化した副鼻腔炎のことを指します。副鼻腔炎とは、副鼻腔(鼻を取り囲むようにして開いている空洞)に膿がたまり、鼻づまりや鼻汁が出るなどの不快な症状を持つ鼻の病気です。

編集部

鼻のしくみ

鼻の孔から気道へつながる、中央の大きな空洞を鼻腔(びくう)といいます。この鼻腔から左右対象に、4つの空洞があります。頬にある上顎洞(じょうがくどう)、目と鼻の間にある篩骨洞(しこつどう)、額にある前頭洞(ぜんとうどう)、鼻の奥にある蝶形骨洞(ちょうけいこつどう)。この4つを合わせて副鼻腔(ふくびくう)といいます。各副鼻腔の内側は薄い粘膜で覆われており、その構造と働きは気管支の粘膜に似ています。副鼻腔は自然孔(しぜんこう)という小さな細い経路で鼻腔とつながり、空気が循環しています。

急性副鼻腔炎と慢性副鼻腔炎

副鼻腔の粘膜に細菌やウイルスが感染して炎症が起こると、粘膜から鼻汁が出

てきます。炎症の程度によって水ばなや、黄色や水色の鼻汁が出ます。この鼻汁が副鼻腔にたまり、炎症で腫れて狭くなった自然孔から出なくなってしまった状態が「副鼻腔炎」です。副鼻腔炎には「急性副鼻腔炎」と「慢性副鼻腔炎」があります。

● 急性副鼻腔炎

急性副鼻腔炎の大半は、急性鼻炎や急性上気道炎などの鼻風邪が引き金になります。これらによって粘膜が腫れると、鼻腔と副鼻腔をつなぐ自然孔が塞がれてしまいます。自然孔は、副鼻腔に入った異物や細菌、ウイルスなどを鼻腔に排出する通り道でもあります。これが塞がれると、細菌やウイルスが副鼻腔にたまるようになります。また、副鼻腔の粘膜に生えている線毛(せんもう)の動きが弱まるため、細菌やウイルスを自然孔に運ぶ働きも悪くなります。その結果、細菌やウイルスが副鼻腔内で増殖し、急性副鼻